



大阪+知的障害+地域+おもろい=創造

知の知の知の知

社会福祉法人大阪手をつなぐ育成会 社会政策研究所情報誌通算 2798 号 2015.12.29 発行

障害者と住民結ぶ えんぴつの家開設30年 神戸 神戸新聞 2015年12月28日
 会報「えんぴつの家だより」などを収録した記念誌「三十年の歩み」。希望者には無料で配布する



30周年を迎えた「えんぴつの家」=神戸市中央区南本町通5

身体や知的、精神に障害のある人が、地域で生きていくための支援拠点「えんぴつの家」

(神戸市中央区南本町

通5)が開設から30年を迎えた。泣いて、笑って、また泣いて、少しずつ活動を大きくした。現在は社会福祉法人としてパン工場やグループホームなど11事業所を運営する。毎月1回、計367号発行された「えんぴつの家だより」から、この30年を振り返る。(木村信行)



■ 出発

〈わたしたちは、みんなと同じ学校へ行き、地域に生き抜きます!〉(1983年6月、号外)

えんぴつの家建設の募金呼び掛けるビラの一文だ。発起人は、初代理事長となる故・玉本格さん。41年間の教員生活を養護学校長で終え、障害者と地域住民が共生する拠点づくりに奔走した。

当時は、施設ではなく地域で生きたいという障害者の願いと、養護学校ではなく普通学校に通わせたいという親や教員らの運動が呼応し、全国的なうねりになっていた。

玉本さんが退職金で購入した土地に85年、市民からの募金3千万円でビルを建てた。

「共生会館」にしようという案もあったが、「狭いところにすーっと伸びるんやから、えんぴつの家や」と声が上がリ、名前が決まった。

1階にパン工場、2階は織物工房、3階は事務所と相談室。仲間が集う交流拠点になった。

一方で「働く場がない」「もっと地域で生きられる場を」ーと切実な声も絶えなかった。

91年、自宅にこもりがちな障害者が通う「六甲デイケアセンター」(神戸市東灘区)を開設。さらに、男性の知的障害者4人が共同生活するグループホーム「たろう」(同市長田

えんぴつの家 30年の歩み

1979年	えんぴつの家の前身となる「子ども教育相談センター」開設
80年	ニュース「子どもと生きる」発刊。その後、「えんぴつの家だより」に
85年	えんぴつの家開設
91年	六甲デイケアセンター開設
95年	阪神・淡路大震災でデイケア施設が全壊、垂水養護学校の一室で144日間、避難生活 被災地障害者センター結成
2000年	知的障害者通所更生施設「神戸市立自立センターあずま」「あずまデイサービス」を開始
06年	三つのグループホームを共同生活介護事業所「ホームえんぴつの家」に統合
08年	ホームつぼみ開設
10年	国香工房(作業所)、ホームくにか開設

区) など4拠点を相次いで開設した。

■転機

〈今こそ、地域で共に生きるチャンスだ〉(1995年4月、127号)

阪神・淡路大震災で、神戸市長田区にあった「ライフデイケア」が全壊。えんぴつの家本部とほかの拠点は無事だったが、ライフの目前に火事が迫り、周辺家屋の大半が壊滅するなど、被災地のど真ん中で手探りの復旧活動が始まった。

ライフデイケアの利用者は垂水養護学校で144日間、避難生活を続けた。全国から駆け付けたボランティアの宿泊基地となったえんぴつの家本部には毎日十数人が寝泊まりし、地域で暮らす障害者の安否確認に奔走。その後、「被災地障害者センター」が結成され、被災地で暮らす障害者700人以上の個別訪問と生活支援を引き継いだ。

■連携

〈グループホームは「施設」ではなく「家」です〉(2011年10月、317号)

震災で痛感したのは、「いざというとき、支えになるのは近所付き合い」という思いだった。

2000年、廃校された吾妻小の旧校舎を利用した「神戸市立自立センターあずま」(同市中央区)の運営を市から受託。さらに、「小学校区ごとに障害者の拠点1カ所」を目標に掲げ、ほかの団体とも連携してグループホームの立ち上げに取り組んだ。自立生活をする障害者を支援するヘルパー派遣事業にも乗り出した。

現在、えんぴつの家は11事業所を運営。延べ107人の障害者が利用している。相談も受け付ける。えんぴつの家TEL078・252・0109

介護ロボの進化、支える人手不足 歩行補助はアシモ源流 真海喬生、榊原謙

朝日新聞 2015年12月28日



さまざまなロボットや器具を使ってリハビリに取り組む「ほえみ三戸」=青森県三戸町、天田充佳撮影



人口減と高齢化が加速する日本で、人手不足の介護を支えるロボット技術や、公共交通網の衰退をカバーする自動運転など、さまざまな技術が独自の進化を遂げはじめた。こうした



技術開発は、日本を追うように高齢化していく世界の市場も見据えている。

接客などで人気を集める日本のロボットを介護に生かす技術開発が進む。

11月上旬、大分市の大分東部病院。リハビリ中の姫野成見（なるみ）さん（55）が、理学療法士に付き添われて廊下をゆっくり歩いていた。

腰に白いポーチのような機械を付け、そこから延びた

2本のL字形の棒状の部品が太ももに巻かれた布地につながる。ホンダが開発した歩行訓練の支援ロボット「歩行アシスト」だ。姫野さんは10月に脳血管障害で倒れ、しばらく歩くのもままならなかったが、「今はだいぶ足が上がるようになってきました」。



11月から医療・介護施設へのリース販売が始まった歩行アシストの源流は、ホンダが開発した二足歩行ロボット「アシモ」だ。

「最初は人の動きを助けるロボットということだけを決め、あとは白紙だった」と当時の開発責任者、加藤久さんは振り返る。そのアシモが独自の「進化」を始めたのは1999年。アシモが華々しく発表される1年ほど前のことだ。

障害越え音色刻む 仙台で演奏会



年岩佐勇太朗君（17）の個展「時計の世界」を29日まで開催中。受賞を祝福するとともに、来場者に作品と演奏を同時に楽しんでもらおうと企画した。

メンバー10人が「ユダスマカベウス」や「メヌエット」など9曲を披露。メンバーの家族ら約40人が岩佐君が描いた作品を眺めながら、バイオリンやチェロの音色を楽しんだ。バイオリンを担当した岩佐君は「自分の絵の前で演奏できてうれしい」と話した。

ミュージズの夢オーケストラは、障害者に音楽を楽しむ場を提供するNPO法人ミュージズの夢（青葉区）が、7月に旗揚げした。県内に住む10～40代の男性10人が活動している。

河北新報 2015年12月28日

岩佐君の個展会場で演奏するミュージズの夢オーケストラのメンバー

障害の有無に関わらず音楽を楽しもうと活動する「ミュージズの夢オーケストラ」が26日、仙台市太白区の「長町遊楽庵びすた〜り」でコンサートを開いた。

びすた〜りでは、オーケストラの一員で、6月の「第1回東北障がい者芸術公募展」で最高賞の大賞に選ばれた、県光明支援学校高等部2

発達障害抑圧避けて／里親探し妊娠期から
◇大正大教授 玉井邦夫さん（56）

読売新聞 2015年12月28日

◇情緒障害児短期治療施設のセラピストなどを経て、障害児・障害者心理学の研究者となり、2008年から現職。日本子ども虐待防止学会代議員も務めている。

週末は、自宅のある甲府市で、発達障害の児童や家族の相談に乗っています。人付き合いがうまくいかず、生きづらさを感じている子供を、親はみな、何とかしてあげたいと頑張っています。その「親心」が結果的に虐待に陥らないよう、力になれるならと思います、依頼があれば各地で講演しています。

玉井邦夫さん＝飯島啓太撮影

発達障害の特性は様々です。例えば、体は大きいのに大の字になって泣いたり、席に座っていられなかったり、特定分野の勉強が非常に苦手だったり。多くの親が悩んでいます。無理に抑え込もうとするのは禁物です。私が相談を受けた中でも、暴れる子を車に閉じ込めたり、毎晩午前2時頃まで勉強させたりといったケースがありました。良かれと思っても、「虐待的」といえるレベルです。

また、事情を知らない他人は「親のしつけがなっていない」と思いがち。周囲の無理解が親を追い詰め、不適切な養育に拍車をかけてしまうこともあります。

力で抑え込むと、障害の特性に悪影響があります。親にたたかれて育てば、「強い者はたいていい」と学び、友達に暴力的になりやすい。たたく側に回れない子は、矛先が自分に向いてしまい、自傷行為や引きこもりにつながる危険もあります。

でも、親や周囲が特性を理解し、それに応じて育てられれば、性格に偏りはあったとしても、上手に人と付き合えるようになれるんですよ。

学校や保育園の支援も不可欠です。子供に正しい力の使い方を教えられるし、親との関係を築いておけば、虐待の抑止力にもなります。子供の服装の乱れや、体のあざなどからいち早く気づくこともできます。いざというときは迷わず児童相談所など関係機関につないでほしい。(聞き手・宮原洋)

萬屋育子さん＝尾賀聡撮影

◇愛知教育大特任教授 萬屋 育子さん(65)

◇愛知県刈谷児童相談センター(児童相談所)の元センター長。児童虐待防止のNPO法人「CAPNA」(名古屋市)理事長も務める。共著に『「赤ちゃん縁組」で虐待死をなくす】。

児童相談所で勤務していた約40年前、まずい対応をしたことがあります。

「妊娠したけど、育てられない……」と相談の電話をかけてきた女性に、「産んでから、困ったら来て」と言ってしまったのです。当時は、乳児が置き去りにされる(コインロッカーベビー)が社会問題になっていた時代。その後、女性からの連絡はなく、深く後悔しました。

2013年度に全国で虐待死した36人のうち、16人が0歳児でした。予期しない妊娠の場合、赤ちゃんを遺棄してしまう母親も中にはいます。そんな子を守るため、愛知県は1982年、妊娠期から、養子縁組を前提に里親になってくれる夫婦を探す制度を始め、昨年度までに約180人の新生児との縁を取り持ちました。

私も90年から、この「愛知方式」に携わっています。予期しない妊娠でも、妊婦は子を待ち望む夫婦がいると知っていれば陣痛に耐え、懸命に産んでくれる。赤ちゃんにとっても、誕生を歓迎してくれる父母がいるのは喜ばしいことです。

しかし全国的には、親が育てられない新生児はまず乳児院に入り、1歳半以降に里親に預けられるのが、まだ一般的です。乳児院では職員に担当替えや異動があるので、幼心に穴が開くこともあります。「いつか引き取りに来る」と言ったきり、音信が途絶える親もいる。人格形成に大切な3歳までの時期は、家庭で過ごすべきです。

愛知方式では、里親を希望する夫婦に「親となる自覚」をしっかりと問います。たとえ子供に障害があったとしても、ほとんどの夫婦は実の親と同じ覚悟を持って育ててくれますよ。この方式を、児相や悩める妊婦にもっと知ってほしいと願っています。(聞き手・



杉山弥生子)

ダウン症女性、絵の才能が突然開花 個展で反響

神戸新聞 2015年12月28日

背景まで不思議な模様で埋め尽くされたユリの絵



個展会場でも大好きな絵筆を離さない居川晶子さん = 神戸市中央区三宮町3

背景まで不思議な模様で埋め尽くされたユリの絵

小さな水玉や羽根のような模様が隙間なく描き込まれた、花の絵、鳥の絵。ひとつひとつの模様がカラフルに塗り分けられ、目くるめく色彩の世界が広がる。ダウン症の居川晶子（いかわあきこ）さん（45）＝兵庫県芦屋市公光町＝の作品だ。10年ほど前、突然絵の才能を開花させ、独特の作風で注目を集めている。（黒川裕生）

晶子さんは京都市左京区出身。知的障害があり、地元の特別支援学校を卒業した後、障害者の授産施設に進んだが、肌に合わず5年ほどで辞めた。

「この子はこれからどうなるんやろうか」。母隆子さん（69）と父隆夫さん（77）は、ほとんどの時間を自宅でおとなしく過ごすようになった長女を見守りながらも、心配でたまらなかった。

晶子さんが30代半ばになったある日のこと。ボールペンで何かを熱心に描いているのに隆子さんが気づいた。優しげな顔をしたお地蔵さんだった。

少し大きな紙を置いてみた。晶子さんは少し大きなお地蔵さんを描いた。絵の具と筆を与えてみた。晶子さんの絵が色を持った。

やがて晶子さんは朝から晩まで一心不乱に描くようになった。題材も地蔵から、クジャクや金魚、草花と変化に富んでいく。

水玉や羽根のような模様を集めて一つの絵をつくる技法。ボールペンで下絵を描き、アクリル絵の具で一つずつ丁寧に塗りつぶす。

1週間に1枚のペースでどんどん作品を生み出す晶子さんに両親は戸惑い、驚いた。「障害があるので習い事はあきらめていた。絵を教えたこともないし、そもそもなぜお地蔵さんを描き始めたのか、本人に尋ねても全然分からないんです」

ダウン症の子を持つ親の会の誘いで、2009年ごろから集会の会場などに絵を展示し始めたところ、関係者の間で話題に。神戸や京都のギャラリー、カフェなどからも声が掛かるようになった。

この12月には、神戸・元町のギャラリーで4日間、個展を開催。縦2・27メートル、



横1・45メートルの大作をはじめ約50点を出品し、来場者の目をくぎ付けにした。

会場には、相変わらず熱心に絵筆を握る晶子さんの姿もあった。「絵は楽しいよ。人からすごいって言われるのもうれしいけど、何より描くことが楽しい」

ユニバ・リポート 生徒たちの豊かな感性

毎日新聞 2015年12月28日



写真=生徒らが作ったボードゲーム

先日、中学1年生が美術の授業で作った、ユニバーサルデザインに配慮したボードゲームを見せていただく機会を得た。

東京都港区のカトリック系私立学校、聖心女子学院の7年生128人が、障害の有無や年齢、性別、国籍にかかわらず、すべての人が使える製品開発の考え方となるユニバーサルデザインの7原則を、それぞれの創意工夫でゲーム盤に取り入れた。

ユニバーサルデザインは1980年代、車いす使用者の工業デザイナーで、米ノースカロライナ大のロナルド・メイス博士が考案した製品設計手法。バリアフリーのように一部の障害者を対象とするのではなく、例えばエレベーターが車いす使用者にも高齢者にも、ベビーカーの子連れにもスーツケースを持つ旅行者にも、すべての人に使えるよう工夫することを目指す。7原則とは、公平性、柔軟性、単純さ、分かりやすさなどで、博士が提唱した基本理念だ。

500グラムの粘土と板を使い、生徒が作ったボードゲームはいわゆる「三目並べ」。三つのコマを縦、横、斜めに早く1列に並べた方が勝ちという簡単なゲームだ。対戦する2人が使うコマは四つずつ。気球とヨット、トマトとニンジン、ハンバーガーとポテトフライ、ドーナツとクッキー、鉛筆と消しゴムなど触っただけで自他の区別が付くよう形を工夫する。【岩下恭土】

子どもの貧困 踏み込んだ対策が要る

信濃毎日新聞 2015年12月28日

子どもの貧困の是正に向けた対策を政府がまとめ、関連費用を来年度の当初予算案に計上した。ひとり親家庭に支給している児童扶養手当の増額が柱だ。ただ、対象が限られ、増額幅も十分とは言いがたい。

とりわけ母子世帯は、働いても困窮から抜け出すのが難しい実態がある。経済的な支援の充実に加え、雇用や生活の安定を図る踏み込んだ施策が欠かせない。

第1子の手当（最大で月4万2千円）は据え置いたため、子どもが1人の世帯は増額にならない。第2子の5千円と第3子以降の3千円を所得に応じて増やすが、それぞれ最大で1万円と6千円だ。

手当は、所得が少ないひとり親家庭の「命綱」と言われる。増額は第2子が36年ぶり、第3子は22年ぶりだから、ようやく前進したことにはなる。とはいえ2人目以降の支給額はまだ低い。拡充に充てる予算は28億円にすぎない。

支給打ち切りの年齢も18歳のままだ。大学進学などの道を狭めるとして、20歳への延長を求める声は強い。実現を急ぐべきだ。

子どもの貧困率は16・3%に上る。所得が分布中央値の半分未満の世帯で暮らす子どもの割合を示す。ほぼ6人に1人である。ひとり親家庭では半数を超す。

母子世帯は特に厳しい。パート、アルバイトなど非正規で働く母親が大半で、就労収入は平均で年180万円ほどにとどまる。

経済的な困窮のために子どもの可能性や選択肢が狭まれば、将来への希望を奪いかねない。貧困家庭の子は自己肯定感が低いことが多いと指摘されてもいる。

のびのびと育つ権利や教育を受ける機会を全ての子どもに保障するために、貧困対策に力を入れなくてはならない。それは同時に、社会の未来への投資でもある。

深刻な貧困の背景には、低賃金の非正規労働が拡大し、雇用が不安定化したことがある。労働者派遣法の改正で、派遣の受け入れ期間の制限が事実上なくなり、状況はさらに悪くなる恐れがある。

税制による「所得の再分配」も不十分だ。それなのに政府は、子や孫への教育資金などの贈与を非課税とする優遇措置を広げている。再分配効果を損ね、格差を固定しかねない。

問われているのは社会の公正さである。弱い立場の親や子どもがしわ寄せを受けないように、税制のあり方や労働政策を政府は根本から見直すべきだ。それなしに、貧困の是正に本気で取り組んでいるとは言えない。

「生き残り術」学ぶ…小学生らサバイバルキャンプに挑戦 大阪・吹田

産経新聞 2015年12月28日



簡易トイレ作りに取り組む子供たち＝大阪府吹田市

小学生らが自力で災害を生きのびる力を身につける「みんなでサバイバルキャンプ」が26、27の両日、大阪府吹田市藤白台の市自然体験交流センター「わくわくの郷(さと)」で行われた。

災害時に助けを待つのではなく、自分の力でピンチを切り抜ける知恵や方法を学ぶのがねらいで、冬休み中の市内の小学3～6年生約20人が参加。海外の被災地に派遣され、救護、支援活動の経験を持つ市内在住の看護師、辻直美さんが講師になり、市担当スタッフと協力してさまざまなサバイバル術を伝授した。

小学生らはまず、地震などで室内の履物がなくなったときに備え、新聞紙を利用したスリッパ作り、段ボール箱や発泡スチロール箱を使った簡易トイレ作りにチャレンジした。

また、タオルケットを使った簡易担架の作り方や、缶詰の魚油で明かりを取る方法を考えるなど2日間、みっちり「生き残り術」を学んだ。

武蔵野市、高齢者介護の情報共有へ 事例まとめ冊子に 東京新聞 2015年12月28日



武蔵野市は、市内の訪問看護ステーションやデイケア施設、老人ホームなどでの高齢者支援の実例をまとめた冊子「ケアリンピック武蔵野2015 プログラム・抄録集」を発行した。

「ケアリンピック」は今年十二日、介護サービス事業者同士の連携や市民への情報提供を目的に市内で初開催されたイベント。冊子には、この時の三十一団体による事例発表やポスター展示の内容が収録された。

妻と自宅療養を続ける七十代の認知症男性の訪問看護では、看護師とケアマネジャー、福祉用具担当者らが連携して車いすでの外出を支援、亡くなる直前まで夫婦で散歩を楽しんだという。

特別養護老人ホームでは、食べる量が減って体力が落ちた百四歳の高齢者が、家族の希望で胃ろうを造設。その後も「食べる楽しみ」を得るため、介護士や看護師、歯科医師、言語聴覚士らが協力し、口から食べる訓練を続けた事例などが紹介されている。

こうした事例発表は、学会や企業ごとに関われることが多く、地域では珍しい。市健康福祉部高齢者支援課の担当者は「町ぐるみのケアの仕組みをつくる上で、異なる介護現場の当事者たちが情報を共有することは貴重。市民にも具体的な介護情報として参考にして

もらえるのでは」と話し、来年以降も続ける予定。

冊子は市役所の高齢者支援課や市政資料コーナー、中央図書館で閲覧できる。（鈴木貴彦）

出版物の販売額 過去最大の落ち込み

NHKニュース 2015年12月28日

ことしの国内の出版物の販売額は、雑誌の売り上げが大きく落ち込んだ影響で、去年より840億円少ないおよそ1兆5200億円となる見通しで、これまでで最大の落ち込みとなりました。

出版業界の調査や研究を行っている東京の出版科学研究所のまとめによりますと、ことし1月から11月までに国内で出版された書籍と雑誌の売り上げは、去年の同じ時期と比べておよそ5.2%減少し、過去最大の落ち込み幅となりました。1年間の販売額は去年より840億円少ない1兆5200億円になる見通しで、これで11年連続でマイナスとなりました。

出版物の種類別にみますと、書籍の売り上げは芥川賞を受賞したお笑い芸人、又吉直樹さんの「火花」が200万部以上の売り上げたほか、新書などは好調だったこともあり、去年から1.9%減少と小幅な落ち込みにとどまりました。一方で、雑誌は前の年から8.2%の減少と、かつてない落ち込みとなり、特に週刊誌の落ち込みが大きくなりました。

出版科学研究所によりますと、スマートフォンの普及により雑誌を読む時間がゲームなどに奪われたことが影響したとみられるということです。出版科学研究所は「今後、出版業の存続を懸けて、書籍の流通や販売の構造変化が一段と進むのではないかと」しています。

厚生年金の加入漏れ、全国に200万人 厚労省推計 久永隆一

朝日新聞 2015年12月29日

厚生年金の加入資格があるのに国民年金に入っている人が全国に推計で約200万人いることが、厚生労働省の調査で分かった。厚生年金の保険料の半分を負担する雇い主が、違法に「加入逃れ」をしている可能性がある。国民年金のままだと、将来受け取る年金額は本来より少なくなる。

■国民年金と厚生年金の違い

	国民年金	厚生年金
対象者	自営業者、非正規社員、無職の人ら1742万人	会社員や公務員、一定の条件を満たす非正規社員ら4039万人
保険料	月額1万5590円を加入者が全額負担	標準報酬月額額の17.828%を労使が折半で負担
年金月額	約6万5千円	約15万6500円

対象者は3月末時点、公務員は保険料を全額納め、今年度は年金は保険料を受け取り始めた人、厚生年金は平均的な年取の場合

調査は昨年10月から今年3月、国民年金に入る20～59歳の約6万2千人を対象に郵送で実施。約2万3千人から回答を得た。雇用形態や労働時間などを尋ね、厚生年金に加入すべき国民年金の加入者がどれだけのいるのか、初めて推計した。

厚生年金は会社などの正社員に加え、パートでも労働時間が正社員の4分の3以上なら対象となる。外国人などを除く国民年金の加入者は、昨年3月時点で約1580万人。調査に基づく推計の結果、そのうち12%強の約200万人に厚生年金の加入資格があるとしている。

